

# メディアガイド

## 1) 競技 トライアスロン

トライアスロンは、スイム(水泳)、バイク(自転車)、ラン(ランニング)の3種目を1人の選手が連続して行うスポーツである。

1974年9月、アメリカのカリフォルニア州サンディエゴ市ミッションベイではじめてトライアスロン大会が実施された。それは、ラン5.3マイル(8.48km)、バイク52マイル(18km)、スイム600ヤード(548.64m)の距離と順序で、翌年にはスイムからはじまる現在のフォーマットになった。

その4年後の'78年にはウルトラロングディスタンス(225.2km)の「ハワイアイアンマン」大会が始まった。一方、総合距離51.5km(スイム1.5km、バイク40km、ラン10km)の大会も年毎に世界に広まり、'89年に国際トライアスロン連合(ITU)が創設され、オリンピックへの正式競技採用を目指して、51.5kmを通称「オリンピックディスタンス」と呼ぶようになった。そして'94年9月の国際オリンピック委員会(IOC)パリ総会においてオリンピック正式競技に採用された。現在では、世界で行われているトライアスロンの80%以上がこの距離で行われている。

## 2) 簡単な競技規則

スイム:

距離マーカーとして設置されたコースブイの外側を泳ぐ。ブイにつかまるとの小休止は許可されるが、ブイをつかまって進むことは禁止されている。

スイムキャップ(大会支給の公式グッズを使用)、ゴーグル、ウエットスーツが着用される。(ウエットスーツは、水温が20℃以上で安定している場合は着用禁止となる。又、厚さは5mm以内で、特殊加工は禁止されている。)

トランジッション:

スイムからバイク、バイクからランへと競技と競技種目を変えること。ここでの速さがタイムに影響するため、トライアスロンの「第4種目」と云われることもある。

トランジッションエリア:

トランジッションエリア内は乗車禁止。ペダル片足走行も禁止されている。

ヘルメットのストラップは、ラックからバイクを外す前にしっかりと締める。フィニッシュ後は、バイクを掛けてからストラップを外す。

バイク:

バイクは、ドロップバーが基本である。選手権大会やエリート部門では、エアロバーが、ブレーキレバーの先端をつないだ線を越えないものと規定されている。

ラン(ランニング):

エリートの意図的な同着は失格とみなされる。

エイドステーション:

エイドステーション以外での第3者からの補給は禁止されている。バイクコースに公式のホイールストップ(バイク車輪/フレーム交換)が置かれることがある。

### 3) トライアスロン基本用語

トライアスロン(Triathlon)

ラテン語の3を表す「トライ」と、競技を意味する「アスロン」の合成語。スイム(水泳)、バイク(自転車)、ラン(ランニング)の3種目を一人の競技者が連続して行うことが基本である。種目をスキーやマウンテンバイクに置き換え、3種目で構成される競技(ウインタートライアスロンなど)もある。

トライアスリート(Triathlete)

トライアスロン参加する、あるいは参加を目指す選手のこと。一般的には単にアスリートと呼ぶことも多い。

エリート(Elite)

トップ選手の呼称。一般選手と区別して競技をスタートすることも多い。

エイジグループ(Age Group)

年齢別(5歳ごと)に競技を行い、表彰するためのグループ分けを示す。エリートの表現と同等の評価が与えられる。

レースナンバー(Race Number)

大会ごとに、選手に付与される識別数字及びウェアに付けるこの数字を書いたもの(化繊紙および布製)をレースナンバーと呼ぶ。ゼッケンという呼称は使用しない。なお、ワールドカップなどでは別途ユニフォーム規定が適用されレースナンバーを着用しない。

マーシャル(Marshal)

競技全体を司る審判。競技中に不正行為を監視し、注意、警告、ペナルティを与える。競技終了後にマーシャル会議を行い、不正行為のあった選手に注意、警告、ペナルティを与えることができる。また選手の安全管理も目的とする。国際的にはレースオフィシャルと呼ぶ場合がある。

エイドステーション(Aid Station)

競技コース途中に設営され、水分、果物、軽食などが供給される。大会が用意したスタッフから手渡される。ワールドカップのバイクではエイドステーションを設置しない。

ドラフティング(Drafting)

おもにバイク競技で先行する選手の直後を走り、スリップストリームを利用し、また先行する選手を風よけとして、競技を有利に展開する戦略。エイジグループでは禁止されているが、ITUワールドカップなどのエリートレースでは公認される。先頭交代のローテーションが駆け引きとしてレース展開に影響を与える。

### 4) 競技取材ポイント

トライアスロンは競技が広範囲に渡るため、それぞれの種目にメディアエリアが設定されている。スイムではスタート、フィニッシュ地点。トランジションエリア外側。バイクはルールを順守してコース外より。ランも同じである。最終フィニッシュ地点では、周囲に取材エリアを設定される。

## 5)日本選手紹介

(女子(8月25日出場))

中西 真知子(なかにし・まちこ) (所属:NTT東日本・NTT西日本)

2004年5月世界選手権での5位の記録は、日本人過去最高位。最もメダルに近い。

1976年9月19日 大阪府出身 桃山学院大学卒

ITUワールドランキング 5位

JTUジャパンランキング 3位

関根 明子(せきね・あきこ) (所属:NTT東日本・NTT西日本)

陸上出身であり、そのランニングの力は、世界NO1といっても過言ではない。ラン勝負の展開になればメダルが見える。

1975年8月30日 福岡県出身 九州国際大学附属高等女子部卒

ITUワールドランキング 23位

JTUジャパンランキング 5位

庭田 清美(にわた・きよみ) (所属:アシックス・ザバス)

安定した力は、過去2度のワールドカップ表彰台にて実証される。シドニー五輪 14位から、アテネでは、入賞とメダル狙い。

1970年12月10日 茨城県出身 龍ヶ崎第二高校卒

ITUワールドランキング 36位

JTUジャパンランキング 11位

(男子(8月26日出場))

田山 寛豪(たやま・ひろかつ) (所属:チームテイケイ)

2003~2004 に最も伸びた日本人男子選手。スイムとランに切れ味あり。バイクの展開により、入賞からメダルを狙う。

1981年11月12日 茨城県出身 流通経済大学卒

ITUワールドランキング 60位

JTUジャパンランキング 3位

西内 洋行(にしうち・ひろゆき) (所属:チームテイケイ)

単独の3種目では、抜群のタイムを持つ。精神的に安定した展開になれば最高のランニングを見せられる。入賞からメダル狙い。

1975年10月13日 福島県出身 東北福祉大学卒

ITUワールドランキング 36位

JTUジャパンランキング 2位

<女子補欠>

下村 真紀(しもむら・まき) (所属:兵庫県トライアスロン協会)

1975年4月23日 兵庫県出身 武庫川女子大学卒

ITUワールドランキング 65位

JTUジャパンランキング 7位

忽那 静香(くつな・しずか) (所属:日東紅茶)

1976年11月2日 熊本県出身 東京女子体育大学卒

ITUワールドランキング 68位

JTUジャパンランキング 10位

<男子補欠>

山本 良介(やまもと・りょうすけ) (所属:神奈川県トライアスロン連合)

1979年5月17日 京都府出身 向陽台高校卒

ITUワールドランキング 72位

JTUジャパンランキング 6位

## 6)コース

競技距離:51.5km(スイム 1.5km、バイク 40km、ラン 10km)

会場:アテネ南(オリンピック村から 45km)の プリャグメーニ(Vouliagmeni) で開催される。

スイム競技:Oceanida ビーチに設けられたポンツーンより50人全員横一列で飛び込みスタート。

バイク競技:スイム終了後階段を一気に駆け上がりトランジションへ。Athenas 通りを Niovis 通りで折り返し、再び Athena 通りを走り、左折し Ermou 通りに入り約1km坂(平均勾配約7%)を上る。Ertous 通りから Mavroleontos 通りに入り標高約78mのコース最高地点に到達後、右折し Panos 通りを一気に下る。再び Athenas 通りに戻り、Athenas-Sounio 自然道路のアップダウンを直進し、駐車場を利用し折り返しトランジションに戻る。標高差約70mの1周8kmを5周回。コース内に3箇所のオイルステーションが設置され、パンクなどバイクトラブルに対応できる。

ラン競技:バイクコースでもある Athena 通りを走る1周3.3kmの3周回。見た目は平坦だが、小刻みなアップダウンがあり、バイクで消耗した足に追い討ちをかける。40度近い気温が予想されるためエイドステーションは約850m毎に設けられる。

## 7)アテネオリンピック・トライアスロン競技・日本人選手の見所

日本人選手のメダル獲得・入賞なるか？

現在のトライアスロン競技は、レース展開によって多くの選手にチャンスがある、そのため日本人女子は、どんな展開になっても対応できる選手が必然的に選考された。スイムからの先行型になった時(70%がこの展開)は、中西選手が有利。特に最近はランでも実力がつき、世界選手権5位の力が発揮されるだろう。また、50人が1パックになり、ラン勝負になった時には世界のトライアスロン界でのランの力がNo1と言われる関根選手(陸上中距離出身)が勝負をかけるだろう。どんな展開でも安定した力を発揮する庭田選手も試合運びのうまさから虎視眈々と上位を狙うだろう。世界のメディアの中で隠れたメダル候補として日本人女子の3人が注目されている。

男子は、世界の中でも群雄割拠の戦いが予想される。伸び盛りの田山選手と世界に通用する隠れた実力をもつ西内選手の二人が試合展開の流れに乗った時は、入賞からメダルが見えてくる。特に田山選手は、スイム終了時の位置次第では、トップに立ち、レースの主導権を握った時には、メダルの可能性が近づく。

「和」の力

日本選手団は、三宅義信監督によって率いられる。三宅監督は、ウエイトリフティング競技での金メダリストだが、今回、異競技のトライアスロンを指導している。

日本では珍しく過去に例の無いケースだが、欧米などでは、多くの事例が見られるケースでもあり、各界がその結果に注目している。三宅監督は、今回のトライアスロンでの五輪挑戦の

テーマを「和」としており、個人競技でありながらもトライアスロン日本人選手団の気持ちをひとつにすることにより、大きなパワーを呼び起こそうとしている。

2003年12月から述べ150日を超える三宅監督の強化合宿体制により、5月の世界選手権での女子10位以内に2名入賞、男子が史上初の9位という成果として現れている。

そして、「戦える集団を作り上げる」という三宅イズムが選手に浸透しきった時に最高の結果が待っているだろう。

(7月22日必要祈願祭(三宅氏が選手として五輪挑戦に望む際の神社にて)、7月23日壮行会を行い、第3次代表強化合宿を経て、8月15日出発)

## 8)日程

### <競技日程>

女子:8月25日(水)<日本時間>午後4時~(現地午前10時)

男子:8月26日(木)<日本時間>午後4時~(現地午前10時)

## 9)テレビ放送

### <テレビ放送>

女子:8月25日(水)NHK 総合チャンネル 午後4時~午後6時(生放送)

NHKBS1チャンネル 午前0時頃~(録画放送)

男子:8月26日(木)NHK 総合チャンネル 午後4時~午後6時(生放送)

HKBS1チャンネル 午後6時頃~(録画放送)

## 10)広報窓口

(社)日本トライアスロン連合 常務理事 大塚眞一郎

{東京連絡先} 〒1500002 渋谷区渋谷2-9-10青山キングビル

(社)日本トライアスロン連合 事務局

電話03-5469-5401 FAX03-5469-5403

mail:otsuka@jtu.or.jp

携帯090-3204-3126

{アテネ連絡先} 携帯090-3204-3126(8月19日から)